



## 嬉しい新聞の記事

17日(金)の熊日朝刊の「読者の広場」のコーナーに、嬉しい記事を見つけました。題名は「思い出に残る『かくれんぼ』』という記事です。以下、主な内容です。



「5日付の本誌に掲載された『全校かくれんぼ』の記事を見て、先生方と子どもたちが協力して思い出づくりをする様子に感激しました。新型コロナ発生から3年が過ぎ、その間全国民が振り回され、子どもたちも多くの制限を受けた学校生活を送ったことでしょう。そんな中での『全校かくれんぼ』の計画。『あっぱれ』と思いました。(中略)『全校かくれんぼ』は生徒自ら考えて、先生方に相談したとのことでした。何といっても『縦割り班活動』として取り組んだことに共感しました。今のご時世、昔と違って子どもたちの遊びの世界も変わり、上下関係も希薄になっているように思います。今回全校挙げての取り組みが、遊びの中でしかできない子どもたちの思い出として心の中に残ると思います。これからも続いてほしいと願っています。」

という内容でした。本校の取り組みが読者や視聴者の共感を生み、それが社会に波紋のように広がっていくと、子どもたちが活躍する学校もどんどん増えていくと思います。そうすることで、社会もきっとよくなると、私は信じているのです。

## 卒業に向けての取り組み

20日の朝から教室をまわっていると、6年生がスピーチの練習をしていました。6年間で振り返って、自分の成長や思い出に残る出来事などを一人一人が作文に書き、それを人前で発表するようです。以下は、偶然私の目の前で発表してくれた子供の内容です。(内容が長いので少し省略して紹介します)



「私は、この6年間で責任感と友達の大切さを学びました。まず、責任感が大切だということを学んだきっかけは、6年生の委員会活動にあります。それは6年生が始まってすぐの集会で、6年生は委員会の活動内容、5年生は学校の花であるムラサキについて発表することになりました。委員会の活動内容の発表が終わり、ムラサキの花についての説明は途切れ途切れだったけど、何とか終わり、安心してたその時でした。どうやら機械のトラブルでムラサキの花の説明だけは聴こえてなかったそうです。機械をちゃんとしてからもう一度説明しました。私は申し訳なくなって、みんなが大切にしているものだから、その分責任を持たなくちゃと思いました。…」と綴られていきます。一人一人が自分の成長を見つめ、様々な出来事が子供たちを成長させているのだと感慨深い思いになりました。残り僅かな小学校生活となりますが、6年生の子供たちには、成長の実感をしっかりと味わって、巣立って行って欲しいと思います。